

ストレス・多愁訴に漢方治療 クレンチング(噛みしめ)に抑肝散



横山 浩一 先生

証クリニック神田 院長

1994年 富山医科薬科大学 医学部 卒業
 同 年 同和漢診療学講座 入局
 1995年 沼津市立病院 内科
 1997年 清水厚生病院 内科
 1999年 富山医科薬科大学附属病院 和漢診療科
 2004年 清水厚生病院 内科
 2007年 証クリニック吉祥寺 院長
 同 年 証クリニック神田 院長

はじめに

クレンチング(噛みしめ)は歯周病、歯の摩耗、顎関節症などの歯科領域におけるトラブルの原因となるばかりでなく、頭痛・肩こりなどの筋緊張症状や、嚥下増加による呑気症などの様々な症状に関与することが指摘されている(図1)。

ストレスに関連する絡み合った複数の愁訴に対してクレンチングに着目し、抑肝散によって改善が得られた症例を紹介する。

症 例

症 例：38歳 女性(経理職 3歳女兒あり)。

主 訴：腹痛・腰痛。

現病歴：10歳代から硬便、ガスが溜まって腹痛があり、時に下痢をする。さらに胃も重く感じたため上部・下部消化管内視鏡検査を受けたが異常はなかった。3年前(出産後半年)から疲れやすく、育児での中腰もあって腰痛が慢性化し、特に腹部膨満感が強いと腰が張ったように痛むと訴えていた。

現代医学的には過敏性腸症候群(痙攣性便秘・呑気症)、筋性腰痛と考えた。

現 症(図2)：患者は非常に落ち着いた雰囲気でお癪では

図1 クレンチングが関与すると考えられる諸症



ないが、イライラ感を自覚していた。肩こり、噛みしめ、起きると顎に疲れ、の訴えと、舌候では歯痕があり、これらはクレンチング(噛みしめ)のサインと考えられた。腹候では心下痞と胃内停水があることから胃腸虚弱も考慮し、抑肝散と六君子湯にて治療を開始した。

治療経過(図3)：再診時(2週間後)には腰痛、腹痛の消失のみならず、イライラも軽減するなど、漢方薬の速やかな効果発現を患者および演者ともども実感した。飲酒後に腹部症状の出現はあるものの、クレンチングの自覚もなくなり、症状はすべて消失した。その後、胃が重いとの訴えがあったため抑肝散を休業したが、腹痛や腰痛が再び出現しなかったため漢方治療を再開したところ、症状は消失した。

図2 現症

望診

身長：154cm 体重：46kg 落ち着いた雰囲気

問診

疲れやすい、イライラ、腹部の張り、腹痛、**肩こり**、腰痛、**嘔みしめ**

食欲：普通 睡眠：寝つき悪い、**起きると顎に疲れ**

尿：5～6/日 便：1/日、兎糞－軟便交互

月経：周期順調。腹痛強い

腹候：

脈候：虚実中間、弦、やや小

腹力3/V

舌候：暗赤紅

腫大・**齒痕**

湿潤した微白苔

鼓音



※ クレンチングの兆候

まとめ－症例が教えてくれたこと－

漢方外来を受診し、様々な愁訴を訴える患者の中には、本症例のように潜在的にクレンチングが関連している場合が多いのではないかとと思われる。抑肝散はイライラや痙攣に対して広く用いられているが、ぐっと食いしぼる、忍耐力強い患者にも適応が広いのではないかとと思われる。

抑肝散の原典は『保嬰撮要』であり、嘔みしめ、痙攣、筋症状や精神症状、消化器症状、不眠などの症候が記されている(図4)。浅田宗伯は『勿誤藥室方函口訣』の中で抑肝散について「筋脈強急する者を治す」と記しているが、クレンチングは筋脈強急の一つの現れではないかと考える。さらに、クレンチングに伴う様々な愁訴も抑肝散の証として捉えることができるのではないかと考える。

クレンチングは、治療者が聞き出さないと気づきにくいいため、問診に加え、齒痕舌を全身的な水滯のサインとしてだけでなく、クレンチングのサインとしても注目すべきと考えられた。

図3 臨床経過

抑肝散

六君子湯

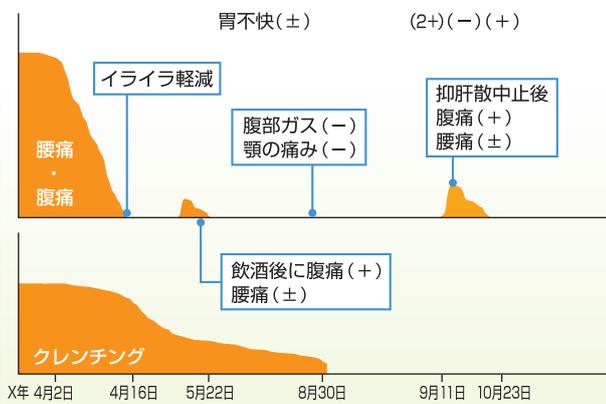


図4 抑肝散

肝経の虚熱、搐を發し、或いは發熱咬牙、或いは驚悸寒熱、或いは木土に乗じて嘔吐痰涎腹脹食少なく睡眠不安からざるものを治す

保嬰撮要 卷1 肝臟門 1556

原典における症候

搐＝痙攣 咬牙＝嘔みしめ 驚悸寒熱＝精神不穩
嘔吐痰涎腹脹食少＝消化器症状(嘔吐・腹満など)
睡眠不安＝睡眠障害

Comment

寺澤：漢方診療を成功させるには、西洋医学ではほとんど注目しないような患者さんの訴える非特異的な症状をどうやって聞き出すか、が非常に重要だと思います。たとえば、抑肝散を用いる際の問診時のポイントとして「朝、顎が疲れるようなことはありませんか」、「歯ぎしりして寝ていませんか」、このようなことを聞いてみることも必要だと思います。非常に重要なkey wordをいただきました。

抑肝散は独創的な素晴らしい内容の処方です。後世の方剤は、筋肉のこわばりがあれば芍薬を、血が巡らないから牡丹皮を、というように足し算によって構成され、薬味がどんどん多くなっています。しかし抑肝散の七味は精選されていることで、切れ味の良い処方になっています。後世の足し算的に物事を考えていく世界とは異なる世界の、非常に良い処方だと思います。